

2026 年度 9 月卒業式式辞

2026 年 9 月 19 日

田中愛治

卒業生の皆さん、ご家族・ご親族の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業される皆さんはもちろん、これまで卒業生を支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、早稲田大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べたいと思います。

卒業生の皆さんだけでなく、ご家族の方にもご参加いただきたい気持ちもありましたが、この早稲田アリーナの前の道路や交差点が危険なほど混雑することもあり、ここ数年間は卒業生の皆さんだけの出席をお願いしています。ご理解いただければと思います。

本日、学部を卒業される方も、芸術学校を修了される方も、大学院の修士課程もしくは博士課程を修了される方も、皆さん晴れやかな気持ちでいらっしゃると思います。私たち教職員も、皆さんの晴れやかな笑顔を見られて、本当に嬉しいです。

私自身にとっても今回の卒業式には、特別な思いを込めております。と申しますのは、私は明日、9月20日で、総長の任期を2期8年務めて退任となりますので、私が卒業式で式辞を述べるのはこれが最後になるからです。

私が総長になってからの約8年の間に、世界でも日本でも多くのことが起きました。近年、世界中で武力紛争や軍事侵攻が起きています。そのため、多くの方々が亡くなり、さらに多くの方々が傷ついています。また、2020年にはコロナ・パンデミックが起き、3年間も続きました。地球上のいたる所で気候変動も激しくなるばかりです。2024年1月には能登半島が地震と津波に襲われ、2026年7月には熊本県が地震に襲われ、多くの方が被災し、亡くなりました。さらに、これらの問題は、どれ一つとして、解決されていません。

なぜ人々は対立し傷つけあうのでしょうか。また人間は自然界の大きな力の前には無力なのでしょうか。

このように、現在、人類が直面している問題は、どれをとっても正解のない、

解決策のない問題ばかりです。このような答えのない問題に果敢に挑戦し、自分なりの解決策を考え抜ける力を、私は「たくましい知性」と呼んでいます。私は過去 8 年の間、学生の皆さんに「たくましい知性」を育んでもらいたいと述べてきました。

同時に、戦争・紛争や自然災害などで苦しんでいる人や、自分とは異なる境遇にいる人のことを理解し、思いやれる「しなやかな感性」も涵養してもらいたいと言ってきました。

過去 4 年間は、自分とは異なる考えを持つ人の声にも耳を傾け、意見を交わす「ひびき合う理性」も高めてもらいたいと伝えてきました。

皆さんは、早稲田大学で学ぶ間に「たくましい知性」「しなやかな感性」「ひびき合う理性」を育んだことと思います。世界は、日本は、現在のように混迷を極める時代であるからこそ、これからの時代は、そういった人材を求めているのです。

この考え方は、実は早稲田大学の建学の精神にもつながるのです。早稲田の創業者・大隈重信は建学の精神として、「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」と述べ、その精神として「一身一家一国の為のみならず、進んで世界に貢献する抱負が無ければならぬ」と説いています。まさに、この精神に基づいているから、早稲田の学生と卒業生の多くは、日本社会に、また世界に貢献しているのだと思います。

同時に、皆さんは早稲田で答えのない問題に対する解決策を考え抜くための基礎となる学問を学んだと思います。学問とは文字が出来てからの過去約 5 千年にわたる人類の経験のエッセンスが体系的に詰まったものです。ですから、学問の中には必ずしも人類が今後直面する未知の問題の解決策は記されていないでしょう。しかし、過去のその時代その時代の未知の問題に対して、人類がどのように立ち向かって解決してきたかは記されています。ですから、学問をないがしろにしてはなりません。学問は、皆さんが今後未知の問題に向かい合うときに、どのように考えるべきか、その考え方や対処の方法を示唆してくれているはず です。

過去 25 年間にわたり、早稲田における教育と研究の質は着実に高くなり、日本トップレベルの質の高い教育を学生の皆さんに提供できるようになりました。

一例を挙げれば、グローバル・エデュケーション・センターやデータ科学センターはA Iを用いたビッグデータの解析方法を入門から、中級、上級までを教えるようになり、昨年度の履修者数の合計は延べ19,612名を数えました。これだけ質の高い教育を全学の学生に提供している大学は、日本では早稲田以外にはありません。

また、早稲田の研究力も国立大学のトップ校と肩を並べるほど高くなってきました。日本政府が肝いりで世界的に研究上の競争力を持ち得る大学を選んで支援しようという「国際卓越研究大学」のコンペティションが、2023年から2025年まで2度開催され、早稲田は唯一の私立大学として2度挑戦をしました。結果的には選ばれませんでしたでしたが、それでも早稲田大学の改革については、高い評価をいただきました。

この事は、大隈重信が卒業生に贈った言葉と関係しています。大隈は「諸君は必ず失敗する。失敗に落胆しなさんな。」と述べ、失敗を糧にして成功を得るようにと述べています。私は、早稲田が「私学には無謀な挑戦」と言われても、結果がどうあれ己を信じて挑戦したことの意義は大きかったと考えています。これこそが早稲田魂と言えると思います。早稲田は、国際卓越研究大学への挑戦をした結果、それまで構築することが出来なかった25年後、すなわち2050年の早稲田のあるべき姿を示すビジョンを手に入れたと考えています。言い換えれば、早稲田は2025年度に完成させた新たなビジョンを維持して改革を進めていけば、2050年には世界でもトップレベルの大学とみなされるようになることを確信しています。

ですから、皆さんは早稲田で学んだことに自信をもって社会に出ていく、もしくは大学院に進学する、留学するなど、新しい道を切り拓いていってください。そして、卒業後も早稲田のことを忘れずに、早稲田と繋がっててください。

最後に二つお伝えしたいことがあります。一つは、皆さんが学生時代に使ってきたMy Wasedaのメールアドレスを卒業後も早稲田と連絡がつくように、ずっとキープしてください。ご自身が将来転職しても、世界中どこに住んでも、ずっと使おうと考えているプライベート・アドレスに、My Wasedaのメールアドレスを自動転送する設定をしてください。また、早稲田のLINEの公式アカウントを登録してください。そうして、皆さんが、将来、リカレント教育、リスキリング教育を受けたいと思った時、留学したいと思った時などに、早稲田はきっと皆さんが求めている答えを提供できると思います。その時に、

My WasedaのメールアドレスやLINEの公式アカウントが役に立ちます。ぜひとも、母校である早稲田大学と一生繋がっててください。

最後の最後に、私がお伝えしたいことは、皆さんは卒業して社会に出たら、ご自身がやりたいと思う、遣り甲斐があると感じることに力を入れてください。目先の出世とか、損得を考えて、ご自身が興味ないことをやっても、皆さんの力は80パーセントしか出ません。ご自身が面白い、遣り甲斐があると感じることなら、皆さんの力は120パーセントになります。どの時代でも、どの社会でも、120パーセントの力で仕事をする人は、80パーセントで仕事をしている人よりも成功する確率が高いのです。私はこのことを、私のゼミ生が卒業する時に言って来ましたが、今は総長としてすべての早稲田の卒業生にお贈りしたいと思います。

卒業後も、時々は母校に帰ってきてください。その時には、今よりも輝いている早稲田で、今よりも輝いている皆さんとお会いしましょう。

To those graduating students who are still learning Japanese, I want to congratulate you briefly in English. You should be proud of what you have learned at Waseda, as well as trust in your intelligence and ability. With your education, intelligence and ability, may you contribute to human kind as you make your way through the world.

Congratulations on your graduation!

卒業生諸君、本日は、ご卒業、本当におめでとう！